



4月18日 (火)

## 親切にすること

聖書朗読 マタイ 25:31～40

善を行うことと、持ち物を人に分けることとを怠ってはいけません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです。  
ヘブル 13:16

1959年にアメリカのテレビで「ボナンザ」と言うタイトルのドラマ番組がありました。裕福なカートライト兄弟が、ポンデローザ大牧場を経営しているストーリーです。毎回の話の中で、主人公であるベンとその息子が、出会う人々に親切にしていたことがとても印象的でした。長く連絡を取っていなかった友達、遠くに住む家族、運が悪いことが続いて落ち込んでいる人などに対して、「泊って行きなよ。部屋は沢山あるから」と、もてなしていました。様々な人々がカートライトと一緒に時間を過ごしたのです。こうしてカートライトと一緒に時間を過ごした人たちは皆、牧場へ来た時よりも心が元気になって出発して行くのでした。

私たちは測ることが出来ないほどに恵まれています。なぜなら、御言葉を聞き、神様からの恩恵を受けているからです。ですから、まだ御言葉を知らない人にも、この恩恵を分かち合いたいと思います。ドラマのカートライト兄弟のように「神様の家には沢山部屋があります。どうぞ、立ち寄って御言葉を聞いて言って下さい」と声を掛けたいです。ポンデローザ大牧場に短期間滞在したお客さん達は、来た時より良い状態になり出発しました。もし神様の家に立ち寄り、御言葉に耳を傾けるのなら、それ以上に素晴らしい永遠の命についての知らせ(福音)を聞くことが出来るでしょう。

讃美歌 360

祈り 神様。私たちが心を開き、福音を私たちの周りの人と分かち合うことが出来ますように。あなたの愛と恩恵が、それを必要としている人々に届きますように。

イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

リンディ・ベル

テキサス州 プレーノー

4月19日 (水)

## 祈りにより強くされる

聖書朗読 マタイ 26:36～46

さて、イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。  
マルコ 1:35

私もだんだんと歳を取るにつれて、今まで出来ていたことが出来なくなってきました。我が家には薪ストーブがあるので、薪割りをします。数年前までは一日で薪を束ねる程、薪割りをすることが出来ました。しかし、最近では束ねる程の薪を作るのに数日かかります。肉体的に疲れ、昼寝をしなければなりません。まさに、この聖句の通りです。『心は燃えていても、肉体は弱いのです。』(マタイ 26:41b)

イエス様ご自身も、父なる神様によって日々強められる必要があったのですが、このことは私にとって少し意外な感じがしました。というのも、イエス様は水上を歩くことも出来ますし、死人を蘇らせるという奇蹟もなさる驚くべきお方だからです。また、イエス様は十字架における苦痛を、実際に経験される前から既に知っておられたお方でもあります(マタイ 20:18～19)。

しかし、そんなイエス様も(父なる神様に祈るために)一番親しい弟子たちと共にゲッセマネに行かれました。弟子たちに起きているよう伝えたにも関わらず、彼らは眠りに落ちました。イエス様は十字架に架かることに對し、神様の選択に身を任せつつ、三度祈りを捧げました。神様はイエス様に天からの強さを与えられました。この厳しい苦難の時、イエス様を支えたのは祈りです。

私は朝、目覚めると、イエス様がマタイ 26:45bで『まだ眠って休んでいるのですか。見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されるのです。』と言われたことを思い出します。まだベッドの中に居たいと思いますが、もっと靈的に大切なことのために時間を使うべきではないかと思うのです。それは、祈りのための時間です。祈りを通して、私は今日一日過ごすための靈的な強さを与えられるのです。

讃美歌 310

祈り 父よ。朝であろうと夜であろうと、私はあなたが必要です。弱い時でも、あなたに従えるよう助けて下さい。

イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

キャロル・ローズ

コロラド州 プエブロ

4月20日（木）

## 確かに必要だったこと

聖書朗読 マタイ 27:11～26

しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。  
イザヤ 53:8

イエス様の十字架という出来事がどうして必要だったのか、考えてみましょう。ピラトはイエス様が処刑される理由がないと思っていました。祭司長、長老たちも、不法な裁判を行わなければ、イエス様を有罪とし十字架につけることは出来ませんでした。しかしピラトは彼らの不正をはっきりとは指摘しませんでした。ユダヤ人達はイエス様の人気を妬んでいたのです。ピラトの妻は前の晩、イエス様は無実だと彼女に確信させるような夢を見ました。ですから彼女は『あの正しい人にはかかわり合わないでください。』（19節）とピラトへ伝えました。ピラトはイエス様を処刑すべきか悩んでいました。また、（宗教指導者たちに扇動されていた）群衆らは、イエス様を処刑することしか考えられなくなっていました。

このように、当時の人々はイエス様の十字架の意味を理解できていませんでした。しかし、彼らのイエス様に対する殺意は、神のご計画で用いられ、彼ら自身の罪が赦されるために、イエス様の血が流されたのでした。

今日を生きる私たちは、罪で満ちたこの暗い世の中が、イエス様の流された血潮、すなわち罪をきよめるための血潮をどれだけ必要としているのか、よく知っています。群衆らは「バラバだ！」と叫んで、バラバの釈放が必要だと叫びましたが、彼らが本当に必要としていたのは、イエス様による罪の赦しだったのです。

イエス様が十字架に架けられた日、私たちの罪は洗い流され、聖なるイエス様は十字架で犠牲になりました。もう一度、イエス様が犠牲になって下さったが故に私たちの罪が洗い流されたことを認識しましょう。

讃美歌 515

祈り イエス様。私たちの為に十字架に架かって下さったことを感謝します。  
イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

テリー・ニュートン  
コロラド州 グリーリー

4月21日（金）

## 神様が一番

聖書朗読 マルコ 1:35～38

さて、イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。  
マルコ 1:35

悪霊を追い出し、病気にかかっている人を癒すイエス様の歩みについて、マルコは沢山書き残しています。イエス様は静かな場所に行き、神様と共に居ることを好まれました。群衆はイエス様を探しました。そんな群衆たちに対応してくれるよう、シモンはイエス様に言いました。しかしイエス様は、次の町へ行きそこで福音を宣べ伝えるべきだ、と言われました。イエス様の日々の行動は、イエス様の人生の目的を反映しています。つまり、少しでも多くの人に福音を宣べ伝えることがとても大切だったのです。シモンの期待は神様ご自身の期待とは合致しませんでした。

私も、自分自身の生活の中で同じように感じる時があります。もし私が他人からの期待に応えようとするなら、それは、彼らを喜ばせることになるでしょう。しかし、それは神様を喜ばせていることになるでしょうか？ 私は神様が与えて下さった、私自身の人生の目的のために生きるべきです。他人の期待に応えるかどうかは重要ではありません。

イエス様は他人を喜ばせることと神様を喜ばせることの違いをきちんと理解していらっしやいました。どうしてそれが可能だったのでしょうか？ それは、イエス様は一人で父なる神との時間を持ち、力添え、導き、そしてご自身の使命を、祈りを通して頂いていたからです。私たちもイエス様のように、神様との時間を持ち、神様に耳を傾けるべきではないでしょうか。

讃美歌 第二編 195

祈り 父よ。日々あなたとの時間を作り、導きを頂くことが出来ますよう助けて下さい。人々を喜ばせることとあなたを喜ばせることの違いを理解する知恵を受けて下さい。

イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

サリー・シャンク  
テネシー州 メンフィス

4月22日（土）

## 黙れ！ 静まれ！

聖書朗読 マルコ 4:35～41

「やめよ。わたしこそ神であることを知れ。わたしは国々の間であがめられ、地の上であがめられる。」  
詩篇 46:10

イエス様が舟に乗られている時、突風と大波に襲われました。その際『イエスは起きあがって、風をしかりつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、大なぎになった。』（39 節）。この時イエス様は、弟子たちに「黙れ！」と言って彼らを叱りつけることももちろん出来たはずです。しかし、イエス様は風を叱りつけ、湖に「黙れ」と言われたのです。困難に出会い、すぐに慌てふためいてしまう弟子たちを、イエス様は幾度となく助けて来られました。ですから弟子たちは、嵐の中でもイエス様が守って下さると信じていても良いはずです。しかし、『先生。私たちがおぼれ死にそうでも、何とも思われぬのですか。』（38 節 b）と思わず口にしてしまいました。

私たちが日々の生活の中で、誰かに「黙れ！」と言いたくなってしまうことはありませんか？ 例えば、子ども達がケンカをしている時、真夜中に騒音を出す隣人に悩まされている時、義理の両親があまりにも頻りに訪ねてくる時、教会のメンバーが全く理解を示してくれない時などです。もしくは、この世にはもう平和なんてないのかも・・・と思った時かもしれません。

しかし、イエス様は弟子たちを怒鳴りつけたりしませんでした。問題の原因を把握し、解決されたのです。そして、もっとイエス様を信じ、委ねるよう弟子たちを励まされました。私たちクリスチャンも、神様が常に共に居て下さっていることを理解し、心の静けさ（平安）という恵みに与りましょう。

讃美歌 520

祈り 神様。私たちのあなたに対する信頼が、より強められますように。あなたにあり、平安を覚えられますように。

イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

ジェス・ピーターソン  
テキサス州 ラボック

4月23日（日）

## 耳を傾ける

聖書朗読 マルコ 6:1～6

そむきの罪をおおう者は、愛を追い求める者。同じことをくり返して言う者は、親しいともを離れさせる。  
箴言 17:9

イエス様はナザレで幼少期をお過ごしになりました。ですから、ナザレの住民は子どもの頃のイエス様を知っていました。例えば、イエス様が膝をすりむいて、泣いていたことを覚えていたことでしょうか。ですから、大人になったイエス様が驚くべき奇蹟を行いながら素晴らしい教えを宣べ伝え始めた時、そのイエス様を（神の御子として）素直に受け入れることが、ナザレの人々には難しかったとしても不思議ではありません。実際、ナザレの人々は敵対的な反応を示しました。

ナザレの人々にとってイエス様がある意味身近な存在であったように、私たちの日々の生活の中で「神の働きの器」となり用いられる人も、しばしば私たちにとって身近な人達である場合があります。私たちの家族や友人らを通して、神様からの導きや注意が与えられるということもあるでしょう。しかし、それに私たちが耳を傾けようとしなければ、神様からの声に気づくことは出来ないと思います。友達からのアドバイスは、もしかしたら神様からあなたに対するアドバイスかもしれないのです。

イエス様は、私たちがいかに簡単に神様に対して敵対的になりやすく、頑固になりやすいか、ご自身の郷里で人々から受け入れられなかったという経験を通して示して下さいました。私たちはいつも神様の穏やかな呼びかけに耳を澄ませているのでしょうか？ 暗闇の中にいるよりも、神様の声に耳を傾ける方が良いのではないのでしょうか？

もう既に、神様の声に従い平安を得た人々もいます。現在進行中で、平安を頂きつつある人々もいます。思いがけず身近な所で神様が働いて下さることもあるのですから、私たちはそのような神の働きに対し心を開きましょう。

讃美歌 333

祈り 親愛なる神様。常にあなたに心を向けられるよう助けて下さい。様々な方法であなたが私たちの生活のなかで働いて下さっていることに感謝します。

イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

イーソン・ブラウン  
ノースキャロライナ州 ヘンダーソンヴィル